



3月の園だより

令和8年3月2日
目黒区立中央町保育園園長

暖かな陽の光とともに日ごとに寒さも和らぎ、春の陽気を感じられる頃になりました。

保育園の玄関では七段飾りのお雛様が子どもたちを出迎え、廊下には各クラスが制作したお雛様が色とりどりに飾られています。子どもたちは保護者の方と一緒にお雛様を見ながら「かわいいでしょ。じぶんでつくったよ」「素敵に出来たね」と会話が弾んでいます。

今年度も残すところあと1か月となりました。5歳児ぼぶら組は卒園を控え、4歳児いちよう組へ朝の人数報告当番の引継ぎが始まりました。4歳児と手を繋ぎ3、4、5歳児の登園人数をクラスへ聞きに行き、事務所と調理室へ報告したり、事務所で飼っているザリガニや玄関前にいるメダカにエサをあげたりします。「ザリガニのひげにエサが当たるようにするといいよ」とコツを教えあげ、5歳児が自信を持って当番を引き継ぐ姿に頼もしさと成長を感じました。



この1年間で子どもたちはご家庭や保育園での様々な経験を通し心も体も健やかに育ち、子どもたちの表情にはかわいらしさの中に凛々しさを感じられます。4月から5歳児は小学校へ、0歳児から4歳児は1つ上のクラスへ進級します。子どもたちがご家族や周りの大人からの愛情を感じながら自己肯定感が育まれ、たくさんの豊かな経験を楽しく積み重ねていけることを願っています。

保護者の皆様にはこの一年間の保育にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

3月の予定

- 卒園式（5歳児）
- お別れ遠足（3、4、5歳児）
- クラス移動日
- お別れ会

クラス移動日については、別途お知らせいたしますのでご確認ください

ひなまつり制作



1歳児クラス



2歳児クラス



3歳児クラス



4歳児クラス



5歳児クラス

つくし組

保育士が積み上げた積み木を倒して遊んでいた子どもたちも、今では自分で積み上げることを楽しんで遊んでいます。ひとつ、ふたつと積み上げ、倒れてはまた積んでと繰り返し遊び、自分の身長よりも高く積むこともあります。初めは積むことも難しかった子どもたちですが、“みてて”と保育士に喃語や仕草で伝えたり、一人で積めた時は「やったね」「すごいね」と返してもらったりしたことで、「もういっかい」と何度もやってみようとしています。保育士に見守られながら安心して遊べたことで、好きな遊びを繰り返し楽しめるようになっていきます。

たけのこ組

保育士が「リズム遊びをしにホールに行こう」と伝えると「やったー」と友達と顔を見合わせ、ジャンプをして笑いあっています。また、もみじ組とのリズム遊びでは、もみじ組が走る姿を目の当たりにすると「すごいねー」「かぜくるねー」と驚いています。クラスでリズム遊びをする日にも「お兄さん来るかな？」と友達に言ったり、もみじ組の前を通る時に「おーい」「ばいばいー」とお兄さんやお姉さんに手を振ったりする子もいて、交流が微笑ましいです。楽しいと感じたことをもっとやりたいと思う気持ちや友達や年上の子と関われることを喜んでいます。

どんぐり組

園庭での友達との関わりから、色々試して遊びが広がってきたどんぐり組の子どもたちです。お兄さんたちの相撲を見て「やってみたいな」と興味を持ち、相撲をやらせてもらうととても楽しかったようです。「またやりたい」と今度はどんぐり組だけで遊び始めました。お兄さんたちとの相撲には緊張していた子も遊びに加わり「一緒にやろう」と子どもたちで遊びが続いたことに成長を感じました。“友達と一緒に”ということが気持ちを後押しして心強さや安心となり、子どもたちの遊びもより一層広がりました。

もみじ組

「一緒に遊ぼう」と友達を誘い、子ども同士で遊び始めるようになってきました。氷鬼では鬼決めも自分たちで行い、4、5歳児クラスをよく見て同じように片足のつま先を合わせ鬼を決める姿に、幼児クラスになって1年を迎える子どもたちの成長を感じています。また、友達とのやりとりでは自分の思いを伝えることを大切にしながら、保育士が仲立ちとなり相手の思いも伝えるなど援助してきました。そうすることで相手の思いに少しずつ気づき「あのね…」と言葉で伝えられるようになってきています。友達との関わりも深まり、心も体も大きく成長しました。

いちよう組

「仲良しの友達と遊ぶ姿」から「皆で遊ぶ姿」へと変わり、子ども同士の関わりが深まってきました。鬼ごっこでは参加人数に合わせて鬼の人数を決めたり、鬼が2人以上いる時には「そっちから捕まえて」など役割分担し、声を掛け合いながら1人が追いかけ、もう1人はその先で隠れて待機し挟み撃ちをするという、複雑な作戦を立て始めました。それに対し、逃げる方は「1人では捕まるから、皆で一緒に逃げよう」と知恵を出し合います。より巧みにそして、いかに楽しく遊ぶかを真剣に考えています。豊かな友達との関係を築き、自己発揮しながら成長している子どもたちです。

ぽぷら組

楽しみにしていた他園とのドッチボール大会が遂に開催され、勝つ嬉しさや負ける悔しさを味わいました。翌日「どうしたら勝てるのか」を話し合うと「相手はパスが上手かった」「外野でボールを取り合わない」という意見が出て、自分だけ頑張っても勝てないという事に気付いたようです。次の試合に向け「キャッチの練習、一緒にやろうよ」と友達と協力し合い、次の試合で見事勝利した時は手を取り合って喜びを分かち合っていました。一人の力よりクラス皆の力が合わさると勝った時の嬉しさも何倍にもなると感じたドッチボールになりました。友達と目標に向かって気持ちを一つにする経験を重ね、自信にも繋がりました。